

# 芸術

アート&音楽

チェンバロ・濱田あやがリサイタル 大阪

公演名には、チェンバロが演奏されていたバロック時代にタイムスリップして、「イマジナリー・シアター（仮想の劇場）」を楽しんでもらいたいという思いを込めた。濱田は「ピアノとの音色の違いや、バッハやヘンデルがどんな音を奏でていたかを味わってほしい」と話す。

曲目はロワイエの「スキタイ人の行進」など技巧的な曲

から、叙情的な作品までさまざま。バッハの「無伴奏バイオリンのためのパルティータ第2番」より「シャコンヌ」(スキンプ・センペ編)は、仏在住のチェンバロ奏者、センペの即興演奏の録音を聞いた濱田が、楽譜が存在しなかつたため本人に確認しながら半年がかりで採譜したという。

濱田は2歳でピアノを始め、19歳の時に旅行で訪れたプラハでモーツァルトが弾いていたというチェンバロに触

れ、その音色に魅せられたと

いう。米ジュリアード音楽院修士課程を修了し、欧米を中心

に演奏活動をしている。今回は同ホールが公募し、審査で選ばれた期待の演奏家にホールを無償で貸し出す「エボリューション・シリーズ」の一環で開かれる。

午後3時開演。同ホール(06

兵庫県芦屋市出身で、米国を拠点にするチェンバロ奏者（濱田あや）写真）が8日、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール（大阪市北区）でリサイタル「イマジナリー・シアター」（チェンバロ劇場）を開く。



田中博子、写真も】